

極秘

一般請求権小委員会臨時小委員会
会第3回会合

昭36.1.27
北東アジア課

1. 一般請求権小委員会臨時小委員会第3回会合は、12月7日午前10時から12時まで、外務省234号室において、次のとおり双方出席の下に開催された。

日本側出席者

郵政省貯金局第2業務課	梶田課長
" " "	石鍋補佐
" " "	助川事務官
" " "	鈴木事務官
" " "	大野事務官
" 簡易保険局数理課	保科補佐
" " 業務課	佐藤事務官
大蔵省理財局外債課	金子補佐
外務省アジア局北東アジア課	渡辺事務官
" " "	久一事務官

韓国側出席者

代表 韓国銀行参事	李相徳
専門委員 通信部郵政局郵便貯金課長	金洛天
" 外務部政務局亞州課三等書記官	金太智

小
第3回

2. 議事要旨

- (1) 冒頭、柄田課長より、前回交換した資料では両者間にかなりの差がある、この差の一部は戦局が熾烈になつたため日計表が日本側に不着のためといわゆる交渉金関係のためと思われる。そこでこの差をなくすために、一応9月末日を基準として計算書および証憑関係をつき合せてはどうかと述べたところ、李相徳代表は今すぐ返答できないが、差を縮める方法については考えよう、自分としては韓国側資料は一般の調査機関が作つたものでなく、官庁である通信省が精算したものであるから、一応信用できるのではないかという点を強調したい、また場合によつては総額の差はそのまま小委員会に報告してもよいと思うと述べた。
- (2) 次に、郵便貯金の日本人・韓国人に区別する試算問題に入り、柄田課長より、9月末日の現在高は約120,218万(うち特

120,218.
93,220.
27,000.

3

別すえ置貯金 2,420 万円)であり、これから朝鮮地域からの引揚げ日本人に支払った額 93,220 万円(昭和20年10月1日以降日本人への支払済高 93,717 万円から、昭和20年10月1日以降朝鮮地域で取り扱われた日本人の貯金預払額の差額 497 万円を差引いたもの)を差引くと、約 27,000 万円しか残らず、またこの残額にはまだ日本人の分が含まれており、これを考えると韓国人分は非常に少なくなるので、如何かと思うと述べた。これに対し李代表は日本側の趣旨はよく了解したと述べた。

- (3) 李代表より、日本側資料 2 の昭和20年10月1日以降、日本人引揚者に支払った 93,717 万円の月別あるいは年別支払額が分れば、その資料をいただきたい、また、その支払額のうち全払はいくらであるかと尋ねたので、柄田課長は、月別支払額は分

(金額を払うに当たって) 4

るかも知れない、全払額は668,661千円であると答えた。金洛天課長より最近の全払通帳を見せてもらいたいと述べたのに対し、柄田課長は確答を避けた。

李代表より引揚者の貯金払戻しに関してどのような措置が講じられたかと尋ねたので、大野事務官より、軍事郵便貯金はSCAPINにもとづき、昭和20年10月大蔵省令第88号で、当時の外国為替管理法を停止し、海外取引を全部ストップした、その後昭和21年初頭大蔵省告示394号で、1人1,000円までの払戻しが許され、昭和23年6月には昭和20年8月15日以前の預入金は全額支払、それ以後のものは1,000円から1,500円引出許可となり、昭和29年5月に「軍事郵便貯金等特別処理法」により全面解除された、また、外地郵便貯金は、大蔵省の告示により当初は500円であつたが、昭和23年6月に、

昭和20年9月30日以前に預入したものは全額、それ以後のものは支払停止した、その後昭和29年5月に解除され、預入地域別に(韓国の場合1対1.5の比率)適当に換算され、払戻されることとなつたと説明したところ、李代表より、今説明された事柄をメモにして頂きたいと述べたので、日本側はできるだけ早くお渡しできるようにすると答えた。

金子補佐より、郵便貯金に関し、韓国では何らの制限もなく、現在ももとの通帳で受払が行なわれているか、またその換算レートはどうかと尋ねたのに対し、李代表は、1対1の比率で引継がれ、現在も何らの制限もなく、受払を行なっていると答えるとともに、日本ではどうかと尋ねた。これに対し、金子補佐は旧通帳の預入は認められず、昭和29年5月の「軍事郵便貯金等特別処理法」後、~~新通帳に切り換えた旨~~答えた。✓

(4) 柄田課長より、韓国側資料では海外為替及び貯金は約7,000万円とあるが、この口数は分らないかと尋ねたところ、李代表は分らない、原簿は日本側にあるので日本側で原簿を調べて分らないかと答えたので、柄田課長は、日本人と混在しており、いわんや創氏改名で分らない、韓国側で通帳の記号番号が分れば調べることができると答え、さらに、柄田課長は、韓国側では旧日本領土から帰還した者に対し、何時頃申告させたかと尋ねた。これに対し、金課長は1947年3月25日から5月13日までの50日間と1948年4月26日から5月25日までの2回にわたって申告させたと答えた。

(5) 郵便為替に関し、柄田課長より、為替の場合、郵便貯金と異なり関係者が、法人ないし団体の場合があり、同一には論じ得ない難^といがある~~と~~と述べた。

(6) 李代表より、日本側の簡易保険関係の資料はどうかとの質問があり、これに対し金子補佐より、簡易保険、年金については、今、数値集計中であり、できしだい資料を提出したいが、これは何分にも朝鮮総督府独自の会計であるので、韓国側から資料を出していただきたい、また、大蔵省預金部に預入した金額も一つの資料であるが、これと同時に当時の契約準備金又は責任準備金の数字も調べていただきたい。その上、請求の基礎として大蔵省預金部に預入した金額¹⁾、契約準備金又は責任準備金のどちらを採用するかは一般請求権小委員会で決めることとしたい旨述べたところ、李代表は日本側の趣旨はよく分つたので、調べてみると答えた。金子補佐は、時点を9月15日、30日のどちらにするかと尋ねたところ、李代表は9月15日としたいと述べた。(なお保険、年金関係につき韓国側は



1) 29頁言う際には、韓国側1億5千万円の資料が提示されるに所見あり、わが方の腹算づもりとしては、預入金はGrossの[]を指す。[]も正しくないかと思えていた次第である。

別添(2)の資料を提出した。その際韓国側の預入金総額は約1億5000万円であると洩らした。)金子補佐より、保険、年金に関しては日本人、朝鮮人の計数が別々に出ているのかと問うたのに対し、李主査よりそのとおりと答えた。

- (7) 次回では総額の差及び試算について双方の数値を交換し、(韓国側は試案の内容を別添(1)のとおり提出した)検討を行ない、場合によつては意見の差はそのまま一般請求権小委員会に報告してもよいとの意見もあり、次回会合を12月13日(水)午前10時に開くことになった。

別添(1)

(a) 項 郵便貯金、振替貯金、郵便為替

円

請求額 1.197.725.743.107

明細	(郵便貯金	1.019.633.809.327
	(振替貯金	111.054.064.022
	(郵便為替	67.037.869.758

第三表

郵便貯金口座および現在高
累年趨勢表

年度	口座数	現在高	一座当平均
1937	4,247,123	68,303,285,000	1608
1938	5,381,152	87,270,254,000	1622
1939	6,066,378	112,802,101,000	1859
1940	6,827,309	141,377,359,000	2071
1941	7,525,850	176,905,604,000	2351
1942	8,679,537	222,819,671,000	2561
1943	11,028,452	330,871,809,000	3000
1944	14,049,796	581,169,028,000	4129
1945			
9月末	15,418,092	1,158,674,783,326	7515

第四表

韓日人人口比較表

年 度	韓 国 人		日 本 人		合 計	
	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口
1942	4587.242	25525409	179.349	752823	4766.591	26278.232
1944	4569.601	25513352	129.561	712583	4699.162	26225935
比 率	0.97	0.94	0.03	0.06	100	100

資料 朝鮮通信統計要覽 (1942 年度)
 1944

第五表

郵便貯金総額中日本人比率算出表

1945年9月15日 郵便貯金現在高	日本人現在高推定 算出額 (B×A)	全体現在高に対 する日本人比率
円 1,158,674,783 326	円 1,390,402,755 500	0.12

備考

(A)	口座総数(第三表)	日本人比率(第四表)	日本人推定口座数
	15,418,092	× 0.06	925,085

(B)	一口座当平均残 高(第三表)	日本人残高を平均 残高の倍と推算	日本人一口座当 推定平均残高
	円 75 15	× 2	円 150 30

第六表

(1) 郵便貯金韓日人金額算出表

1945年9月15日現在

郵便貯金現在高		韓日人別残高算出額		韓日人比率 (第五表)
円		円		
1,158,674,783	326	韓 1,019,633,809	327	088
		日 139,040,973	999	012

(2) 郵便為替および振替貯金韓日人金額算出表

1945年9月15日現在

種 別	韓日人合算現在高		韓日人比率 (第五表)	韓日人別残高算出額	
	円			円	
振替貯金	1,261,978,000	025	韓 088	1,110,540,640	022
			日 012	151,437,360	003
郵便為替	761,793,397	452	韓 088	670,378,690	758
			日 012	91,415,270	694
合 計	2,023,771,197	777	韓 088	1,780,919,330	780
			日 012	242,852,263	697

備考 韓日人の比率は郵便貯金るとき算出した
比率を準用した。

別添 (2)

(C) 項 朝鮮簡易生命保険および郵便年金

円 銭

請求額 135,444,445.51

第一表

朝鮮簡易生命保険および郵便年金の
預金部預金一覧表

1945年9月15日現在

種 別	簡 易 生 命 保 險		郵 便 年 金		合 計	
	円		円		円	
積立金	116,945,340	032	10,164,709	980	127,110,050	012
余裕金	20,330,000	000	1,400,000	000	21,730,000	000
合 計	137,275,340	032	11,564,709	980	148,840,050	012

第二表

朝鮮簡易生命保險韓日人比率表

1945年8月末現在

韓日人別	加入者数		保 險 料			保 險 金 額		
	加入者数	比率	保険料(月額)		比率	保険金額		比率
韓国人	10518829	093	12967545 ^円	400	091	2438810366 ^円	200	092
日本人	719332	007	1170806	700	009	196626458	000	008
合 計	11238161	100	14138352	100	100	2635436824	200	100

第三表

朝鮮簡易生命保險および郵便年金韓日人別金額算出表

1945年9月15日現在

朝鮮簡易生命保險および郵便年金 預金部預金（第一表）	韓日人比率 （第二表）	韓日人別金額
円 148.840.050 012	韓 0.91 日 0.09	円 135.444.445 510 13.395.604 502